

②0 COOD CREATORS (米子市)

障害のあるアーティストのアートを、デザインとして仕上げて販売する「山陰ご当地フォントプロジェクト」を展開している。商品のパッケージや印刷物、自動車のラッピングなど企業に活用してもらうことで、収益の一部を福祉施設に還元し、作家の創作意欲や工賃の向上につなげている。

遠藤亨代表(48)は、障害者と社会の接点が少ないことや、福祉サービス事業所での工賃の低さといった社会的な課題を見聞きし、解



障害者の作品 デザイン化



障害のあるアーティストとデザイナーが一緒に制作に取り組む

決策を模索していた。

その中で、日本グラフィックデザイン協会の東京のグループが、障害者の描いた文字や絵をデザイナーがフォントとしてデザインして、個人や企業に利用してもらう「シブヤフォント」の取り組みを知った。遠藤さんは山陰でも展開したいと、鳥取、島根両県のデザイナーや団体がいやすいパートナーやフォントに仕上げる。

イナーや福祉施設に声をかけ2023年に始動した。デザイナーは作家のこだわりやモチーフ、描き方を最大限生かしながら、企業や団体が使いやすいパターンやフォントに仕上げる。

鳥取県公民連携推進事業補助金を活用して事業を実施しており、昨年11月から、ファミリーマートの約1万6千店舗で山陰ご当地フォントのシールを販売したり、鳥取県内のイベントに出展したりして、デザインに触れてもらう機会を提供している。

遠藤代表は新たな作家の発掘も進めており、「見てもらうことで創作意欲につながりたい。新作を増やし、まずは地元の企業に使ってもらえたら」と意気込む。